

オリパラ教育の必要性

- 東京2020大会まで2年を切るなか、開催都市だけでなく、全国的なオリパラ・ムーブメントの推進が不可欠。特にパラリンピックへの関心の向上が課題。
- オリパラ教育は、大会そのものへの興味関心の向上だけでなく、オリパラを題材として、スポーツの価値、国際・異文化、共生社会への理解を深めるとともに、規範意識を養うなど多面的な教育的価値を持つ。我が国の無形のレガシーとして、オリパラ教育の必要性は高い。

オリパラ教育地域拠点

<事業内容>

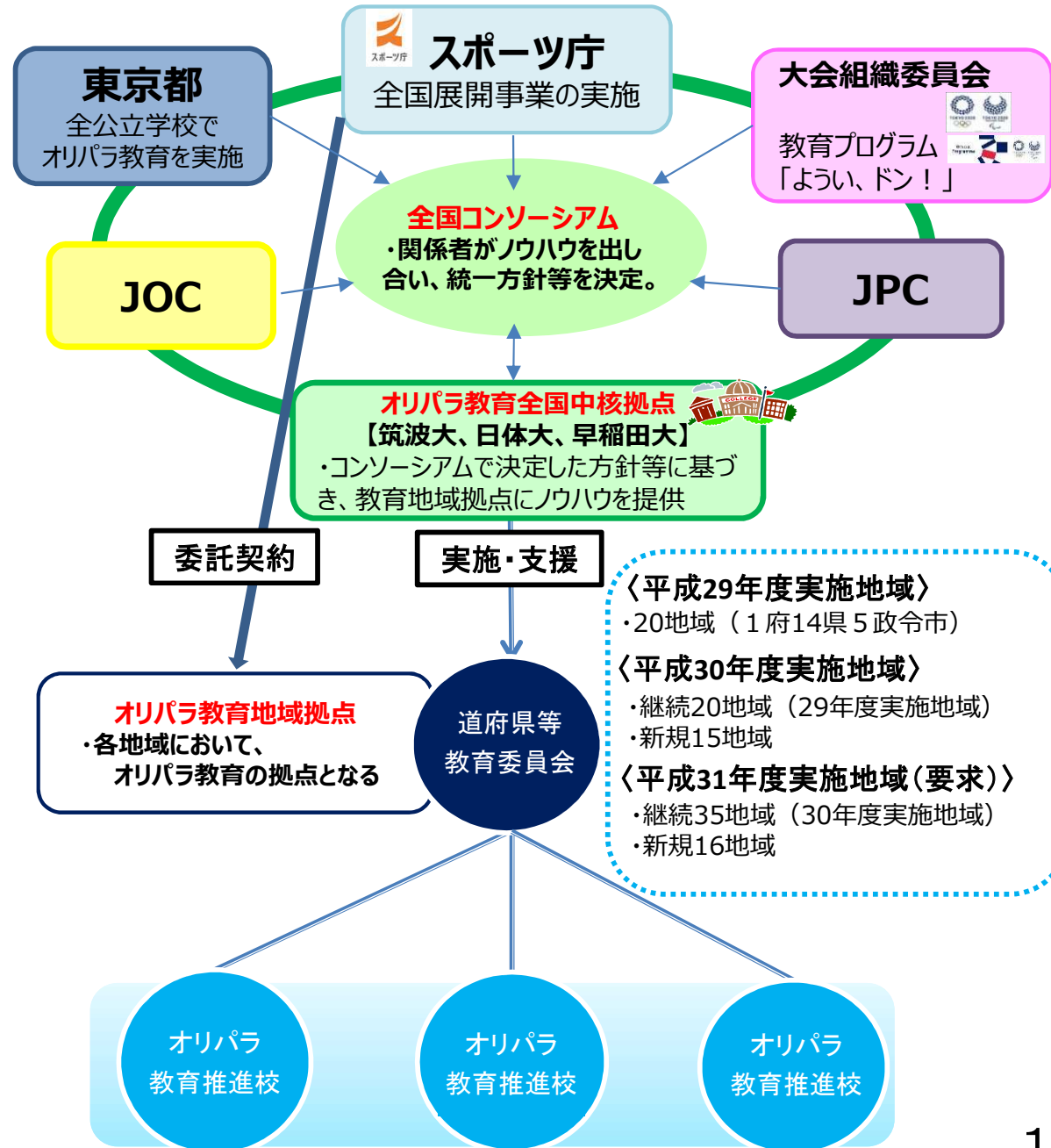
- ・各地域で地域セミナーを開催
 - ・教育推進校を指定し、推進校ではオリパラを題材にした授業・競技体験等を展開
 - ・推進校の内容を地域報告会で地域内の学校に共有
- 【平成31年度要求（新規）】
- ・パラリンピック競技の観戦・体験事業を重点的に実施
⇒より多くの生徒が2020年のパラリンピックを競技会場で観戦

<平成30年度実施地域：35地域>

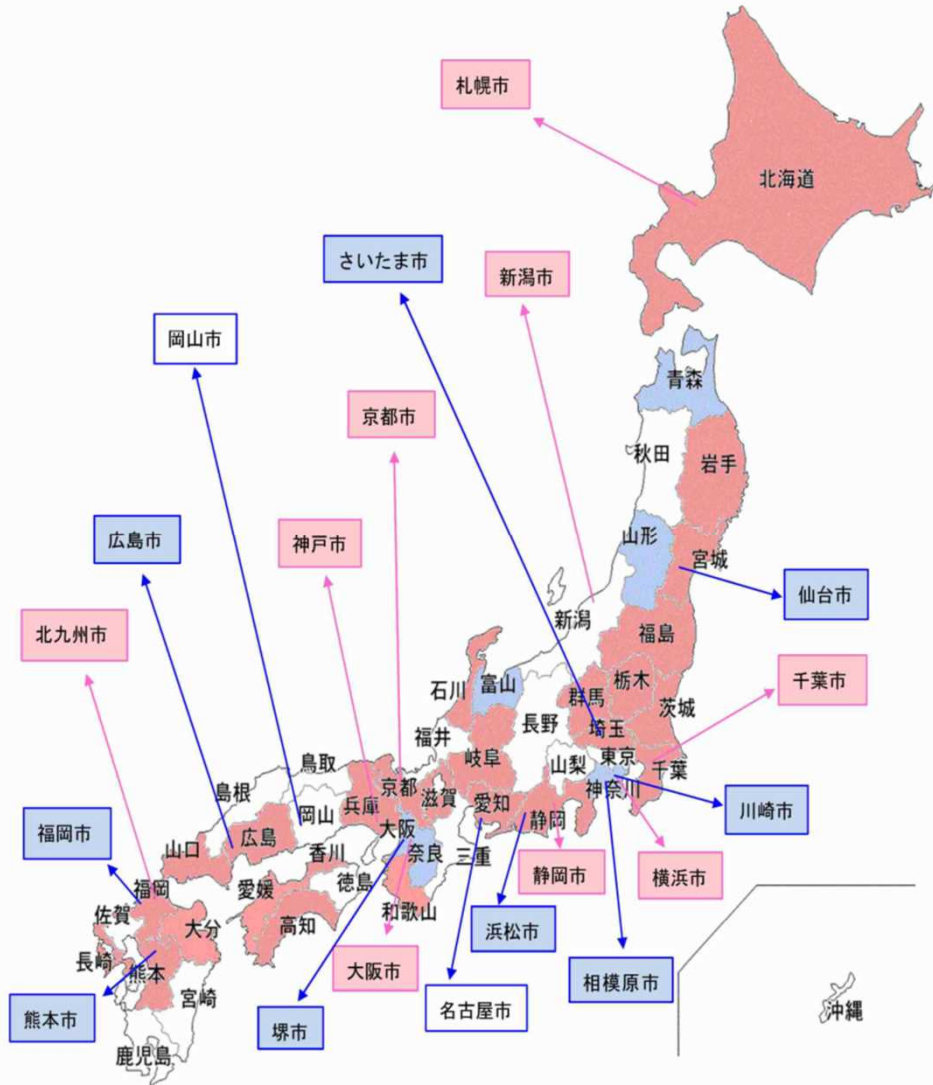
- ・平成29年度からの継続地域
岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県、石川県、岐阜県、静岡県、京都府、兵庫県、広島県、高知県、福岡県、長崎県、熊本県、札幌市、千葉市、京都市、大阪市、北九州市（1府14県5政令市）
- ・平成30年度新規地域
北海道、栃木県、群馬県、埼玉県、愛知県、滋賀県、和歌山県、山口県、香川県、愛媛県、大分県、横浜市、新潟市、静岡市、神戸市（1道10県4政令市）





平成31年度 オリパラムーブメント全国展開事業



平成30年度 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業



 :平成30年度スポーツ庁事業実施地域

 :独自にオリパラ教育を実施している地域or
県事業でオリパラ教育を実施している政令市

【平成31年度要求】

より多くの生徒が2020年のパラリンピックを競技会場で観戦するよう、パラリンピック競技の観戦・体験事業を重点的に実施する。

【取組事例】

○学校名 静岡県伊豆の国市立大仁中学校

○観戦対象

ジャパン・パラサイクリングカップ2017（全日本自転車競技選手権大会と同時開催）

日程・会場：2017年11月17日～19日 @伊豆ベロドローム（東京2020大会会場）

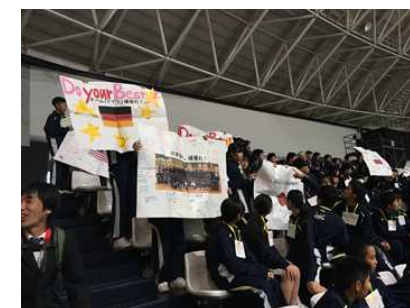
世界6か国の選手が参加したパラサイクリングの国際大会。**入場無料**。観客は3日間で1万人程度。

○実施内容

- ・事前学習としてオリンピック・パラリンピック憲章、歴史、競技種目、参加国等を学習。
- ・パラリンピアンである川本翔太選手との交流。
- ・世界選手権の観戦。
- ・パラリンピック競技種目（パラサイクリング）の競技体験。
- ・世界選手権に出場した選手との交流。

○実践の成果

- ・パラリンピック選手の努力を見て、自身の夢への意欲が高まった。
- ・市内のバリアフリーを進める必要があるとの意見も見られた。
- ・**2020年に東京オリンピック・パラリンピックを観戦したいと答えた生徒が89%。**



地域で開催される障がい者スポーツ大会



全国障害者スポーツ大会(2018年は福井県)



ジャパンパラ陸上(2018は群馬県)



日本パラ陸上(2018年は香川県)



国際車いすバスケットボール大会(北九州市)



大分国際車いすマラソン大会(大分県)

今後の日程は日本障がい者スポーツ協会HP(<http://www.jsad.or.jp/calendar/competition/index.html>)参照